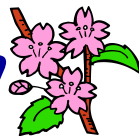


# サ・ク・ラ・サ・ク!4th



(最高学年、苦楽を糧に、さあ、本当にクライマックス!)

上野高校進路指導部通信(3年生 家庭配布版) 最終号 2014/2/28

## 1 春は目の前 あと一息頑張れますか?

明日は卒業式です。私立、国公立大学とも前期試験は終了しました。十分に力を発揮できましたか? 第一志望の受験が終わった後、何を感じましたか? 先輩は「これだけ頑張ったのだから悔いはない」とすっきりした、また「もうこれで終わりなのか」としんみりした、と言っています。

皆さんは三年間、合格のために努力を重ねてきましたが、試験会場で解答している時間は実質半日程度です。先日まで冬季オリンピックが開催されていました。4年もの間あらゆる努力を積み重ねて、本番の競技時間はゲレンデやトラック種目なら1分程度、しかもワンミスで敗退です。

フィギュアスケートの浅田真央選手、初日に失敗してメダル圏外、しかし二日目の演技は日本のみならず海外のファンの心も打ちました。彼女の技量ならメダルを目標に確実に得点を稼ぐことは容易なはずです。しかし、彼女は失敗を恐れずひたすら女子選手の技術の限界に挑み続けます。その妥協を許さない姿勢に自分を重ね合わせたくなるから、ファンは常に彼女を応援し、演技の成功を祈るのです。

みなさんは「成功が約束されていなければ努力する気がわいてこない」ですか? 社会人になるとうまくいかないことの方が多いです。用意周到に準備しても成功する保証はありません。入試も同じです。「合格だけを目的」にしている人にとって3月の入試は過酷です。しかし、努力する度に知識が蓄積されていく心地よさや挑戦する喜びを知っている人は、3月の入試も強い気持ちで臨むことができます。そうした「心の強い人」に育ってほしい、これが三学年団と進路指導部の願いなのです。

武道場にある「もう一息、もう一息、もう一息というところでくたばっては何事にもならない」はよい言葉です。高校生活最後の「一息」を見せてください! 上野高校は皆さんとともに最後まで戦います!

## 2 国公立後期入試 志望動機が問われる

国公立大学の後期試験で各大学が求める生徒はおおむね「センター試験の高得点者」かつ「学科適性のある生徒」です。そこで「うちの学部・学科の学生としてふさわしいかどうか」を試すために面接や、学科やコースの専門性に直結した小論文がよく課されます。『進路の手引』を再読しましょう。

### ① 面接…志望動機を「用意する」のではなく「心に落とす」

なぜその大学、学部、学科に行きたいのか、そこではどのようなものの考え方が必要なのか、自分に適性があるのか、を心の中に落としておく必要があります。後期出願は第一志望でないとはいえ、その大学を志望する以上は、志望動機について小手先に走らず、自分の奥深いところに立ち返って考えましょう。

### ② 小論文…志望学部・学科に必要な「ものの見方や考え方」に強くなる

志望学部の研究テーマと関連がある時事問題（特に是非が分かれるもの）を再確認し、その学部学科特有の「切り口」で論じる練習をしましょう。また最近では課題文の要約やグラフの正確な読みとりなど学問的スキルを試す部分の比重が高まっています。要約練習は必須です。医療系、教育系は知識を詰め込むより現場で働く人の体験記等を読んで、その仕事をする上での心がけを理解しましょう。

### ○ 三重大志望者必見！後期小論文が求める力

- 人文—文化：環境と人間社会のあり方（11）本と電子書籍（12）、知性と情報通（13）など異なる考えをそれぞれ定義し、それらの共通点・相違点、関連性を整理できるかを評価しています。ディベート的発想ではなく物事を突き詰めて考える姿勢が求められます。
- 人文—法律経済：外国人参政権（11）政権交代（12）少子高齢化（13）など、話題はタイムリーですが、「国民」「高齢化」など社会科学の基本事項を定義できるか、課題文にある複数の論点を正確に理解し、争点を整理できるか（リーガルマインド）が評価ポイントです。
- 教育、医—看護：障がい児とその保護者への教員の寄り添い方（特別支援）音楽教育の意義（音楽）ユーモアとケア（看護）など。設問が専攻に関わるテーマである、ないに関わらず、その専攻にふさわしい発想から論じられるかが最大の評価ポイントです。

## 3 強い意志が成功を引き寄せる！

一年間ありがとうございました。先生のおかげで世界史に意欲がわき、先生に教わった勉強の仕方、世界史の点数が足を引っ張っていたのに、本番では逆に他の教科をカバーするほど伸びて、結果〇〇大学に後期で合格することができました。わたしが前期（筆者注：同じ大学）落ちたとき励ましてくださった言葉がとても力になりました。あのときおっしゃっていた言葉が全部本当だったことを今身にしみて感じています。ありがとうございました！！

これは筆者が4年前に卒業生からもらった手紙です。その日三年生担任室に行くと、この生徒が前期の合否報告に来たところでした。よほど悔しかったのでしょうか、目は涙でいっぱいでした。それで、

あなたが行きたい大学は、第一志望の生徒ばかりが受験してくる伝統ある大学。合格した人は「どうしてもその大学に行きたい」という気持ちが他の受験生を上回った、ということ。私はあなたが前からその大学を志望していたことを知っています。あなたが後期で合格するには、あなたがその気持ちで他の人を上回るしかない。悔しいならすぐ帰って机に向かいなさい。

たぶんこのような話をしました。今考えるとかなり酷いことを言ったような気がしますが、その生徒は後期の厳しい判定を覆しました。学力は才能で決まりません。もし才能という言葉を使うなら「努力できる才能」です。皆さんの「サ・ク・ラ・サ・ク」報告を心待ちにしています！



努力できる才能は一生の財産 未来は自分で切り拓こう！